

## 米国の繊維ミル消費、最終消費の推移

米国のミル消費、最終消費をみると、過去 10 年で、ミル消費が大きく縮小する一方、最終消費は、2009 年のリーマンショックの落ち込みから回復し、全体として高い水準を維持している。

繊維ミル消費とは、紡績・織物など紡織段階に投入される繊維量のこととで、一般的にその国の紡織産業の生産活動を示す指標となっていることから、過去数年間に米国の紡織生産基盤の喪失が急速に進んでいることを示している。

### 1. 米国のミル消費

2010 年の米国の繊維ミル消費は、前年比 12% 増の 422 万トﾝとなった。前年のリーマンショックによる消費不振の落ち込みからは回復となったが、中長期的にみると、過去 10 年で約 6 割の水準までに減少している。素材で見ると、化合繊は過去 10 年で 3 分の 2 の水準への縮小にとどまっているが、綿は 2000 年の約 4 割の水準まで大きく縮小した。

米国のミル消費は、2000 年台前半までは、NAFTA 等米州との自由貿易協定/特惠協定による製品輸入が多く、輸入品に自国産素材が用いられていたことがあり、高いレベルを維持してきたが、2005 年の繊維協定失効（繊維貿易自由化）を機に、アジアからの製品輸入が拡大、ミル消費の減少が加速、紡織産業の生産基盤が揺るいでいる。

### 米国の繊維ミル消費

(1,000 トﾝ、%)

	化合繊	綿	毛	合計
1995	4,675	2,318	73	7,067
2000	5,160	2,156	46	7,362
05	4,643	1,315	19	5,978
09	3,056	717	9	3,782
10	3,426	789	9	4,224
10/09	12.1	10.1	-5.0	11.7
10/00	-33.6	-63.4	-81.2	-42.6
10/95	-26.7	-66.0	-88.3	-40.2

## 2. 米国の繊維最終消費

2010年の米国の繊維最終消費は前年比12%増の1,083万トンとなった。長期的なトレンドでみると、2000年以降は景気に左右され多少の増減はあるものの、ほぼ横ばい程度で推移している。素材別の最終消費をみると、化合繊と綿の比率は2000年から2010年にかけて大きな変化はなく、化合繊比率は55%程度となっている。

### 米国の繊維最終消費

(1,000 トン、%)

	化合繊	綿	毛	合計
1995	5,209	3,555	165	9,298
2000	6,200	4,466	169	11,173
05	6,691	5,021	188	12,313
09	5,231	4,038	151	9,670
10	5,940	4,455	176	10,833
10/09	13.5	10.3	16.5	12.0
10/00	-4.2	-0.2	4.3	-3.0
10/95	14.0	25.3	6.9	16.5

2010年の1人当たりの繊維最終消費量は35kgであった。日本、韓国、台湾などのアジア先進国、欧州などの世界の先進地域の1人当たりの繊維消費量は、概ね20-25kg水準であるが、米国は突出して高い繊維消費となっている。これは、カーペット等の化合繊需要が大きいことに加え、綿の消費量も高水準であることから、繊維製品の使い捨て文化が定着しているなど、消費構造の違いが影響しているとみられる。

### 米国の1人当たりの繊維最終消費 (kg)

	化合繊	綿	合計
1995	19.5	13.3	34.9
2000	22.0	15.8	39.6
05	22.6	16.9	41.5
09	17.0	13.2	31.5
10	19.1	14.4	34.9

また、繊維品の輸入浸透率をみると、全体では1995年の42%が2010年には82%まで上昇した。

化合繊は66%の輸入浸透率にとどまっているが、綿についてはほぼ100%の輸入浸透率となった。米国の綿産業は、歴史的に綿花栽培から紡織、繊維製品、衣類と伝統的に一貫生産体制そろっていたが、近年は衰退が著しく、製品輸入の増加によって、統計上ではほぼすべて輸入品という状況になった。

米国の繊維品輸入浸透率（%）

	化合繊	綿	合計
1995	31%	52%	42%
2000	43%	77%	59%
05	56%	95%	74%
09	65%	99%	81%
10	66%	100%	82%

（担当：業務調査グループ 鍵山）